

平成 31 年度・令和元年度 事業報告書

I. 公益目的事業

ア. 研究交流、研究環境活性化事業

1. 外国人研究者生活立ち上げ等支援業務

1) ((国研)物質・材料研究機構から受託)

物質・材料研究機構の外国人研究者に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援を行った外国人研究者は 254 名、支援件数 2127 件であった。

2) (国立大学法人東京大学から受託)

東京大学柏地区カブリ数物連携宇宙研究機構の外国人研究者に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援を行った外国人研究者は 95 名、支援件数 899 件であった。

3) ((国研)国立環境研究所から受託)

国立環境研究所の外国人研究者に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援した外国人研究者は 9 名、支援件数 29 件であった。

4) (国立大学法人筑波大学から受託)

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構の外国人研究者等に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援した外国人研究者は 2 名、支援件数 2 件であった。

5) (大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構から受託)

高エネルギー加速器研究機構の外国人研究者等に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援した外国人研究者は 54 名、支援件数 253 件であった。

6) (オートリブ株式会社から受託)

オートリブ(株)の外国人社員に対する生活立ち上げ支援等を行った。支援した外国人研究者は 10 名、支援件数 13 件であった。

7) 外国人研究者等総合保険制度創設

(自主事業)

我が国に在留する(短期滞在を含む)外国人研究者の傷害、疾病、事故等のリスクに備え、我が国での研究生活をサポートする保険制度を提供した。今年度の新規利用申請について 29 機関を承認し、既承認機関を含めた 255 名に対して保険を付与した。なお、現時点での組織単位を含めた承認数は 60 となった。

2. 外国人研究者交流・生活確保事業

1) 外国人研究者宿舎生活サポート事業

(国研)科学技術振興機構から受託)

筑波研究学園都市の研究開発法人等で研究に従事する外国人研究者及びその家族のための宿舎である JST 二の宮ハウス及び JST 竹園ハウスにおいて居住者の生活立ち上げ等を支援した。両宿舎の居住者間の相互交流促進やつくば市の研究機関の研究者及び地域住民と交流を図るためのセミナーの開催などを行った。外国人研究者が来日当初から日本で円滑に生活し、研究活動に専念できる環境を提供する業務を推進した。

利用者数：

二の宮ハウス：502 件（63 ヶ国）

竹園ハウス：60 件（16 ヶ国）

2) 外国人宿舎管理運営事業

(国研)科学技術振興機構から受託)

筑波研究学園都市の研究開発法人等で研究に従事する外国人研究者及びその家族のための宿舎である JST 二の宮ハウス及び JST 竹園ハウスの良好な管理運営を実施した。

3. 科学技術関係者国際交流プログラム支援事業

1) 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン） 関係業務

(1) ((国研)科学技術振興機構との実施協定)

令和元年度科学技術関係者招へいプログラムの運営支援を行った。

支援件数 3 件

- ① 9月29日～10月5日 ASEAN等からの科学技術関係者 27名
- ② 1月25日～2月1日 インドからの科学技術関係者 25名
- ③ 2月16日～2月22日 ベトナムからの科学技術関係者 25名

(2) ((国研)科学技術振興機構との実施協定)

さくらサイエンス5周年シンポジウムの開催（11月11日）のための成果集の作成及びシンポジウムの運営支援を行った。

(3) ((国研)科学技術振興機構との実施協定)

「さくらサイエンスプラン」科学技術体験コースの採択を受け、下記のとおり招へいした。(1件)

第3回公募・・・1月6日～12日、中国科学技術教育関係者、15名

2) ASEAN HPC プロジェクト調査のための招へいプログラム関係業務

(富士通(株)から受託)

ASEAN HPC プロジェクト調査のための科学技術関係者招へいプログラムの運営支援を行った。

3) 科学技術関係者の訪日プログラムの作成運営支援業務

((株) JTB から受託)

短期の行政官等の外国人招へいに関する科学技術関連の訪日プログラムの作成・運営支援を行った。

支援件数 5件

4) 「さくらサイエンスクラブ (SSC)」の運営事務局業務

((国研) 科学技術振興機構請負業務)

「さくらサイエンスプラン」参加者のネットワーク形成を目的とし設置された「さくらサイエンスクラブ」の事務局業務 (同窓会の開催、名簿作成、ホームページによる情報提供、掲示板内の質問及び問合せメールの返信業務、メールマガジン配信、マイページ内の情報収集、アンケートの集計等) を行った。

5) 国際研修会の企画・実施

(自主事業)

(1) 我が国の科学技術関係者が中国の科学技術の現況を把握し、必要なネットワークを構築するための国際研修会を9月22日～25日に実施した。

(2) 中国の科学技術関係者が日本の科学技術の現況を把握し、必要なネットワークを構築するための国際研修会を実施した。

研修件数 6件

- ① 6月17日-18日、中国南京市栖霞区行政官3名
- ② 9月10日-15日、中国陝西省科学技術庁副長官を含む行政官6名
- ③ 9月16日-20日、中国福利会少年宮高校校長及び教員5名
- ④ 10月27日-11月9日、中国科学院力学研究所研究者8名
- ⑤ 1月14日-18日、中国北京工業大学教員及び学生一行
- ⑥ 9月22日-9月25日、訪中団東海大学など3名

6) 令和元年度「日中大学フェア&フォーラム in イノベーション・ジャパン」開催に係る関連業務

((国研) 科学技術振興機構請負業務)

科学技術振興機構 中国総合研究・さくらサイエンスセンター主催の日中大学交流会の中国側参加大学の展示ポスター取りまとめ、出展者と日本側のマッチング支援を行った。

7) 日中科学技術政策セミナー開催にかかる運営支援

((国研) 科学技術振興機構請負業務)

科学技術振興機構 中国総合研究・さくらサイエンスセンター主催の日

中科学技術政策セミナー開催にかかる運営支援を行った。

イ. 情報収集、調査研究事業

1. 中国総合研究・さくらサイエンスセンター研究会速報の発行

(国研)科学技術振興機構請負業務)

(国研)科学技術振興機構 中国総合研究・さくらサイエンスセンターが主催する研究会に関する速報の作成、発行を行った。年9回の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり4回の開催となった。

2. JISTEC Report 等の発行

当センターの活動等を広く一般に公開するため、「JISTEC Report」Vol. 89 を発行した。

3. 「中国の世界一流大学・一流学科構築政策及び取り組み」に関する調査研究 (国研)科学技術振興機構請負業務)

令和元年度の新規委託調査研究の1つとなる、「中国の世界一流大学・一流学科構築政策及び取り組み」について、日中の関連専門家による委員会開催、執筆、取り纏めなどの作業を行い、中国の最新大学重点化政策「世界一流大学・一流学科構築（双一流）政策」の実施の具体的な状況を詳細に調査してとりまとめた。本事業は3月末に終了した。

4. 「災害時の危機管理の在り方」に関する調査研究

(自主事業)

福島第一原子力発電所事故の経験から自然災害と人的被害の共通する課題を研究し、減債対策を科学的な観点で提言するための調査研究を行うにあたり、災害危機管理検討部会を立ち上げ勉強会を行った。

II. その他事業

1. 講演会の開催

(自主事業)

社会的に関心の高いテーマを選定し、「科学技術・文化交流サロン」等講演会を10月9日に第22回サロンを開催した。3月に予定していた第23回サロンは新型コロナウイルス感染症対策として延期した。

2. 科学技術関係者の研修会の開催

(自主事業)

科学技術外交官関係者の研修と日本の関係機関との交流を目的として科学技術研修会を4月11日と9月23日に企画・実施した。

3. ホームページによる情報の提供

(自主事業)

ホームページにより、外国人研究者の日本受入れ促進に資する情報、日本滞在における生活支援情報及び外国人宿舎情報等を提供した。

4. JISTEC 30周年記念事業

(自主事業)

2020年11月に創立30周年を迎えるにあたり、記念事業の企画検討を行い、令和元年7月30日にJISTEC30周年準備委員会を開催した。また、ホームページの英語版を30周年記念事業として制作した。

5. 中国研究サロン企画・運營業務

((国研)科学技術振興機構請負業務)

JST 中国総合研究・さくらサイエンスセンターが開催する“中国研究サロン”の企画・運営を行った。年9回の開催予定であったが、1回の開催となった。

6. 科学技術団体連合の運営事務局業務

(受託事業)

会員相互の連携の下、科学技術振興の活性化に関する諸事業を協力して実施し、もってわが国における科学技術の振興及び普及啓発の推進に寄与することを目的とする団体の企画・運営を行った。

7. 牧友会の運営事務局業務

(受託事業)

会員相互の親睦を深め、あわせて科学技術行政の充実に資することを目的とし、会員は国家公務員として科学技術行政に携わった者及び携わっている者で前記目的の趣旨に賛同した者で構成する団体の企画・運営を行った。

8. 科学技術議員等国際交流基金運営事業

(本年度は事業の執行がなかった。)

9. 芦田基金運営事業

芦田基金の趣旨に沿って、優秀な女性研究者の顕彰（輝く女性研究者賞（JST主催））に関して必要な助成事業を行った。